

教科・科目	地理歴史・世界史B	単位数	4(前期2+後期2)		
		ライン	4	開講時期	前期と後期

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	世界の歴史を諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、現代の諸課題を歴史的観点から考察することによって、歴史的思考力を培い、世界の歴史に関わる諸事象を多面的・多角的に考えることができる。
使用教科書・副教材等	新選世界史B(東京書籍)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会の形成者としての責務を果たそうとしている。	観察 レポート	15%
b. 思考・判断・表現	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	レポート 試験	35%
c. 資料活用の技能	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	レポート 試験	35%
d. 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	レポート 試験	15%

3 学習計画

スクーリング回数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
			a	b	c	d
前期	① 地球と人類の始まり 西アジア世界・地中海世界の形成	オリエント文明、ギリシア・ローマ文明等に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を追究しようとする。	○			
	② 南アジア・東南アジア・東アジア ・内陸アジア世界の形成	南アジア・東南アジア・東アジア・内陸アジア世界の形成過程に関する諸資料を収集し、読み取ったりまとめたりできる。			○	
	③ イスラーム世界の形成と拡大	アラブ人とイスラーム帝国の発展等、イスラーム世界の形成と拡大過程を考察し、表現することができる。		○		
	④	この回は実施されません				
	⑤ ヨーロッパ世界の形成と変動	ヨーロッパ世界の形成と展開の過程について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解することができる。				○
	⑥ 内陸アジア世界と諸地域世界	内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を考察し、表現することができる。		○		
	⑦ アジア諸地域世界の繁栄と成熟	アジア諸地域の特質と日本の位置づけに関する諸資料を収集し、読み取ったりまとめたりできる。			○	
後期	⑧ ヨーロッパ世界の拡大と大西洋世界	大航海時代と大西洋世界の形成、ヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を追究しようとする。	○			
	⑨ 産業社会と国民国家の形成	ヨーロッパ世界の経済的・政治的変革、産業社会と国民国家の形成に関する諸資料を収集し、読み取ることができる。			○	
	⑩ 世界市場の形成とアジア諸国	19世紀のアジアの特質とそれの中の日本の位置づけを考察し、表現することができる。		○		
	⑪	この回は実施されません				
	⑫ 世界の分割	アジアの民族主義、世界の一体化について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解することができる。				○
	⑬ 二つの世界大戦	二つの大戦、ロシア革命、世界恐慌と資本主義の変容等の20世紀前半の世界の動向を考察し、表現することができる。		○		
	⑭ 戦後世界の形成と変容 21世紀の課題	第二次世界大戦後から現代までの世界の動向や社会の変容に関する諸資料を収集し、読み取ったりまとめたりできる。			○	

4 単位修得の条件(次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件のすべてを満たすことが必要。)

スクーリング	前期2回以上、後期2回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリングの回数には含めることができない。
レポート	前1回～前6回、後1回～後6回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

○ 学習の記録		担当の先生	先生		登録				
スクーリング回数	学 習 内 容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格		日S	月S	火S	木S	
前期	① 地球と人類の始まり 西アジア世界・地中海世界の形成	前1	1 3	2 4	4/23	-	4/25	4/27	
	② 南アジア世界・東南アジア・東アジア ・内陸アジア世界の形成	前2	1 3	2 4	5/14	-	5/16	5/18	
	③ イスラーム世界の形成と拡大	前3	1 3	2 4	5/28	-	5/30	6/1	
	④	この回は実施されません							
	⑤ ヨーロッパ世界の形成と変動	前4	1 3	2 4	6/25	-	6/27	6/29	
	⑥ 内陸アジア世界と諸地域世界	前5	1 3	2 4	7/9	-	7/11	7/13	
	⑦ アジア諸地域世界の繁栄と成熟	前6	1 3	2 4	7/23	-	7/25	7/27	
	試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試	8/27	-	8/29	8/24
後期	⑧ ヨーロッパ世界の拡大と大西洋世界	後1	1 3	2 4	10/8	-	10/10	10/12	
	⑨ 産業社会と国民国家の形成	後2	1 3	2 4	10/22	-	10/24	10/26	
	⑩ 世界市場の形成とアジア諸国	後3	1 3	2 4	11/5	-	11/7	11/2	
	⑪	この回は実施されません							
	⑫ 世界の分割	後4	1 3	2 4	12/3	-	12/5	12/7	
	⑬ 二つの世界大戦	後5	1 3	2 4	12/17	-	12/19	12/21	
	⑭ 戦後世界の形成と変容 21世紀の課題	後6	1 3	2 4	1/7	-	1/9	1/11	
	試験	レポート後1～後6の内容		本試験	追再試	1/28	-	1/30	1/25

【先生からのメッセージ】

世界史Bの学習を通じて、世界の多様性を理解し、人類が生み出したすばらしいモノについて感動し、自分の視野と価値観を広げていくことが大切になってきます。そのため、理解を深めるために、できるだけ毎回のスクーリングに出席し、分からないことがある場合は、教科別質問教室に参加し、解決していくようにしましょう。

教科・科目	地理歴史・日本史B	単位数	4(前期2+後期2)		
		ライン	3	開講時期	前期と後期

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	我が国の歴史を、東アジア世界を中心に、ヨーロッパ世界とも関連付けて考察することで、我が国の伝統・文化の特色についての認識を深めるとともに、歴史的思考力を身に付け、我が国の歴史に関わる諸事象を多面的・多角的に考えることができる。
使用教科書・副教材等	高校日本史 改訂版(山川出版社)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとしている。	観察 レポート	25%
b. 思考・判断・表現	我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	レポート 試験	25%
c. 資料活用の技能	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	レポート 試験	25%
d. 知識・理解	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。	レポート 試験	25%

3 学習計画

スクーリング回数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
			a	b	c	d
前期	① 日本の文化の始まり、農耕の開始 ヤマト政権と古墳	我が国の社会・文化の成り立ちについて、関心を持って追究しようとする。	○			
	② 律令国家の成立、律令国家の繁栄 律令国家の変質	律令国家の成立と変質について、東アジアの国際情勢と関連付けて理解することができる。				○
	③ 撰閣政治、国風文化 荘園の発達と武士の台頭	我が国の独自の文化に関する諸資料を収集し、情報を選択して、読み取ったりまとめたりできる。			○	
	④	この回は実施されません				
	⑤ 院政と平氏の台頭、鎌倉幕府の成立 と発展、蒙古襲来と幕府の衰退	武士の登場の背景やその社会的地位の向上について、当時の政治や社会情勢と関連付けて理解することができる。				○
	⑥ 鎌倉文化、室町幕府の成立 上剋下の社会	経済の発達や蒙古襲来が武士の社会や幕府に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現することができる。		○		
	⑦ 室町文化、戦国の動乱 織豊政権	戦国の乱世に至る過程や織豊政権に関する諸資料を収集し、情報を選択して、読み取ったりまとめたりできる。			○	
後期	⑧ 江戸幕府の成立、江戸初期の外交 幕政の安定	幕藩体制の成立・安定に向かう過程について、関心を持って追究しようとする。	○			
	⑨ 経済の発展、元禄文化 幕政の改革	江戸時代の経済の発展や文化・幕政改革の特色について多面的・多角的に考察し、表現することができる。		○		
	⑩ 江戸幕府の衰退、化政文化 開国と幕府の滅亡、明治維新	列強の接近や幕府衰退・滅亡の原因、更には明治維新の特色を、国際情勢と関連付けて理解することができる。				○
	⑪	この回は実施されません				
	⑫ 立憲国家の成立、大陸政策の展開 近代産業の発展、近代の文化	立憲国家の成立過程に関する諸資料を収集し、情報を選択して、読み取ったりまとめたりできる。			○	
	⑬ 第一次世界大戦、政党政治と大衆 文化、恐慌の時代、軍部の台頭	我が国の大陸政策の特色や国際・国内情勢について多面的・多角的に考察し、表現することができる。		○		
	⑭ 第二次世界大戦、占領下の改革 55年体制と高度経済成長	占領期～高度経済成長とその後の変容について、関心を持って追究しようとする。	○			

4 単位修得の条件(次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件のすべてを満たすことが必要。)

スクーリング	前期2回以上、後期2回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリングの回数には含めることができない。
レポート	前1回～前6回、後1回～後6回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

○ 学習の記録		担当の先生	先生		登録				
スクーリング回数	学 習 内 容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格		日S	月S	火S	木S	
前期	① 日本の文化の始まり、農耕の開始 ヤマト政権と古墳	前1	1 3	2 4	4/23	-	4/25	4/27	
	② 律令国家の成立、律令国家の繁栄 律令国家の変質	前2	1 3	2 4	5/14	-	5/16	5/18	
	③ 摂関政治、国風文化 荘園の発達と武士の台頭	前3	1 3	2 4	5/28	-	5/30	6/1	
	④	この回は実施されません							
	⑤ 院政と平氏の台頭、鎌倉幕府の成立と発展 蒙古襲来と幕府の衰退	前4	1 3	2 4	6/25	-	6/27	6/29	
	⑥ 鎌倉文化、室町幕府の成立 下剋上の社会	前5	1 3	2 4	7/9	-	7/11	7/13	
	⑦ 室町文化、戦国の動乱 織豊政権	前6	1 3	2 4	7/23	-	7/25	7/27	
	試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試	8/27	-	8/29	8/24
後期	⑧ 江戸幕府の成立、江戸初期の外交 幕政の安定	後1	1 3	2 4	10/8	-	10/10	10/12	
	⑨ 経済の発展、元禄文化 幕政の改革	後2	1 3	2 4	10/22	-	10/24	10/26	
	⑩ 江戸幕府の衰退、化政文化 開国と幕府の滅亡、明治維新	後3	1 3	2 4	11/5	-	11/7	11/2	
	⑪	この回は実施されません							
	⑫ 立憲国家の成立、大陸政策の展開 近代産業の発展、近代の文化	後4	1 3	2 4	12/3	-	12/5	12/7	
	⑬ 第一次世界大戦、政党政治と大衆文化 恐慌の時代、軍部の台頭	後5	1 3	2 4	12/17	-	12/19	12/21	
	⑭ 第二次世界大戦、占領下の改革 55年体制と高度経済成長	後6	1 3	2 4	1/7	-	1/9	1/11	
	試験	レポート後1～後6の内容		本試験	追再試	1/28	-	1/30	1/25

【先生からのメッセージ】

日本の歴史を学習することは、今を生きる我々にとって非常に大切なことです。日本史の学習を通じて、過去の日本と日本人が歩んできた道のりを追体験でき、さらに日本文化の素晴らしさを再認識することができます。今後の我々や日本の在り方や生き方について考えていくために、できるだけ毎回のスクーリングに参加し、分からないことがある場合は、教科別質問教室に参加し、解決していくようにしましょう。

教科・科目	地理歴史・地理B	単位数	4(前期2+後期2)		
		ライン	3	開講時期	前期と後期

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、地理に関わる諸事象を多面的・多角的に考えることができる。
使用教科書・副教材等	新編 詳解地理B改訂版(二宮書店) 標準高等地図-地図でよむ現代社会-(帝国書院)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	観察 レポート	25%
b. 思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して表現している。	レポート 試験	25%
c. 資料活用の技能	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	レポート 試験	25%
d. 知識・理解	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。	レポート 試験	25%

3 学習計画

スクーリング回数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
			a	b	c	d
前期	① 地理情報と地図	地理情報と地図に関する諸資料を収集し、情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりできる。			○	
	② 地形	世界の地形について、基本的な事柄や追究の方法を理解することができる。				○
	③ 気候、自然と生活	世界の気候について、分布や人間生活との関わりなどを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現できる。		○		
	④	この回は実施されません				
	⑤ 農林水産業	世界の農林水産業について、基本的な事柄や追究の方法を理解することができる。				○
	⑥ 資源・エネルギー	世界の資源・エネルギーに関する諸資料を収集し、情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりすることができる。			○	
	⑦ 工業、流通と消費	世界の工業、流通と消費に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとする。	○			
後期	⑧ 人口、都市・村落	人口、都市・村落について、分布や動向などを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現することができる。		○		
	⑨ 生活文化と民族・宗教	世界の生活文化、民族・宗教に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとする。	○			
	⑩ 中国、韓国、東南アジア	東アジアや東南アジアについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。		○		
	⑪	この回は実施されません				
	⑫ インド、西アジア・中央アジア、アフリカ	アジアの諸地域やアフリカについて、諸資料の収集し、情報を選択し、読み取り図表にまとめることができる。			○	
	⑬ ヨーロッパ	EUやOISなどの地域的統合について、基本的な事柄や追究の方法を理解することができる。				○
	⑭ 南北アメリカ、オセアニア 現代世界と日本	世界の諸地域と日本との経済的な結びつきに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとする。	○			

4 単位修得の条件(次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件のすべてを満たすことが必要。)

スクーリング	前期2回以上、後期2回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリングの回数には含めることができない。
レポート	前1回～前6回、後1回～後6回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

○ 学習の記録		担当の先生	先生		登録				
スクーリング回数	学 習 内 容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格		日S	月S	火S	木S	
前期	① 地理情報と地図	前1	1 3	2 4	4/23	-	4/25	4/27	
	② 地形	前2	1 3	2 4	5/14	-	5/16	5/18	
	③ 気候、自然と生活	前3	1 3	2 4	5/28	-	5/30	6/1	
	④	この回は実施されません							
	⑤ 農林水産業	前4	1 3	2 4	6/25	-	6/27	6/29	
	⑥ 資源・エネルギー	前5	1 3	2 4	7/9	-	7/11	7/13	
	⑦ 工業、流通と消費	前6	1 3	2 4	7/23	-	7/25	7/27	
	試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試	8/27	-	8/29	8/24
後期	⑧ 人口、都市・村落	後1	1 3	2 4	10/8	-	10/10	10/12	
	⑨ 生活文化と民族・宗教	後2	1 3	2 4	10/22	-	10/24	10/26	
	⑩ 中国、韓国、東南アジア	後3	1 3	2 4	11/5	-	11/7	11/2	
	⑪	この回は実施されません							
	⑫ インド、西アジア・中央アジア、アフリカ	後4	1 3	2 4	12/3	-	12/5	12/7	
	⑬ ヨーロッパ	後5	1 3	2 4	12/17	-	12/19	12/21	
	⑭ 南北アメリカ、オセアニア 現代世界と日本	後6	1 3	2 4	1/7	-	1/9	1/11	
	試験	レポート後1～後6の内容		本試験	追再試	1/28	-	1/30	1/25

【先生からのメッセージ】

私たちの身の回りには、世界各地で生産された物があります。このような社会に住んでいると、世界はどこでも同じような考え方で、同じような生活が送られていると思いがちです。しかし、世界には様々な気候や風土、暮らしや文化、考え方があり、多様な人々が生活しています。世界の人々と理解しあい、基本的な知識を身に付けていくために、できるだけ毎回のスクーリングに参加し、分からないことがある場合は、教科別質問教室に参加し、解決していきましょう。